

# 農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成29年 6月 29日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 二番草の刈り取りは、適期に行いましょう。チモシー 一番草後の追肥は忘れずに！！
- ◆ 更新後草地の状況によっては簡易更新で植生改善をする！
- ◆ 暑熱対策のおさらいを！泌乳牛は一度体力を落とすとなかなか元には戻りません。

## 1 飼料作物

### (1) 二番草の収穫など

#### ア チモシー 一番草刈り取り後施肥の重要性

チモシーは一番草刈り取り後に新旧分けつの世代交代をおこないます。よって新分けつ発生を促進させ、翌年の多収を実現する上で一番草刈り取り後の施肥は極めて重要です。この時期の施肥を省略してしまうと新分けつ発生量が減少し、茎数密度が維持できず翌年の収量が減少します。

一番草刈り取り後 10 日目ごろに施肥します。肥料の種類は速効性のある化成肥料の効果が高いです。「チモシーは一番草しかとらないから追肥はしない」というのは翌年の収量を減少させることとなりますので、一番草収穫後には必ず追肥を実施しましょう！

#### イ 二番草の収穫

収穫時期は、一番草収穫後から 40～55 日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、刈り遅れないようにします。

また、極端な低刈りは、地温の上昇から高温障害を受ける恐れがあります。刈り取り高さは 10～15cm (握りこぶし1つ分ぐらい) とします。

#### ウ 収穫後の施肥

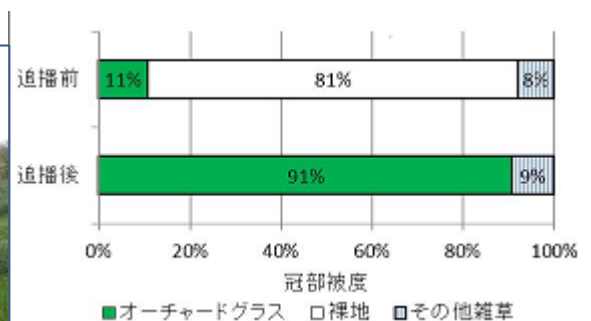
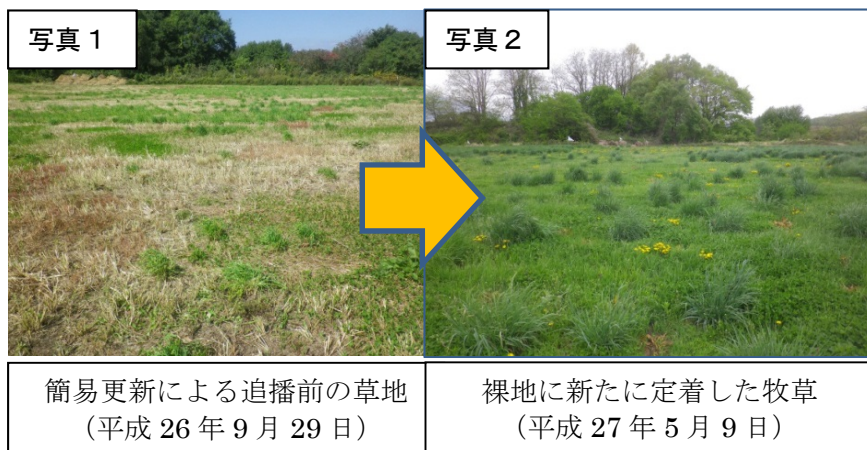
三番草の生育促進のため、二番草収穫後、できるだけ早く施肥します。施肥量は、10a あたり窒素 5kg、リン酸 2.5kg、カリ 5kg です。尿散布を行う場合は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に行いましょう。

### (2) 完全草地更新の失敗を補う簡易更新

#### ア 簡易更新による追播

夏の暑さと雑草の草勢が弱まる時期 (概ね盆明け～9月下旬) に簡易更新により追播を実施すると完全更新でうまくいかなかった圃場を改善できる場合があります。

下の写真は平成25年春に完全草地更新を実施した後、干ばつにより牧草が定着せず裸地が多くなってしまった草地ですが、平成26年秋に簡易更新により植生をうまく改善できた事例です。



※平成27年度畜産研究所 試験成績書より

図1 追播後の植生改善の状況

### (3) 飼料用トウモロコシのクマによる食害防除

ア 電気柵は早めに設置し、必ず昼夜問わず通電させておきましょう。

設置しても通電しないと電気柵は痛くない、怖くないといった意図する逆の学習をしてしまいます。お盆前には必ず設置、通電を！！7月中にできればなお良いです！！

また、トウモロコシの草丈がまだ小さいうちだと電気柵の設置作業もラクです。

イ 電圧は通電時に最低5,000ボルト確保できるような電牧器を選択しましょう。

電圧は定期的にチェックし、電圧が維持されているか確かめましょう！！

正常時の電圧を電牧器本体に記録しておくと異常に気づきやすくなります。(写真3)

また、アースの電圧も測定し、アースがしっかりと利いているか確認します。0.5kVよりも高ければ、アース本数の追加を検討しましょう(写真4)。

ウ 圃場周辺のクマの侵入経路(竹やぶ、ススキ)を刈り倒し、見通しをよくします(写真5)。

圃場の外周の見通しが悪いとクマに電気柵を視覚的にアピールするための効果が低下します。



写真3

設置日と電圧を記録

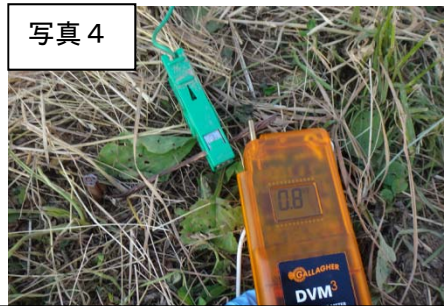


写真4

アースの正しい設置は電牧器の効果を十分に発揮するために欠かせません！



写真5

大事なものはクマに電気柵を認識させ、接近しないことを学習させること！！

## 2 暑熱の影響の緩和

気象庁は6～8月の平均気温が西日本を中心に平年より高くなると予報しており、今夏の暑熱対策はいつもに増して力を入れましょう。

(1) 牛舎内温度、牛の体感温度を上げないようにします。

輻射熱や直射日光(西日)の遮断、換気・送風量の確保に気をつけてください。

泌乳牛は夏に体力が低下すると涼しくなってもすぐに体力は元に戻りません。

(2) 飼料と水に注意します。

新鮮な水を十分に飲水できるように、給水量の確認と、水槽のこまめな掃除を行います。つなぎ牛舎で夏場にウォーターカップ(WC)での水遊びが頻繁に観察できる場合はWCの掃除をおこない、臭いや汚れを取りましょう(特に押しペラの裏も念入りに！)。

また、嗜好性の良い粗飼料の給与に努めます。嗜好性の良い飼料(配合飼料やビートパルプを水で戻したものなど)をふりかけるなど、採食意欲を高める上で有効です。

(3) 採食量の低下を最小限にしましょう。

外気温が低い夜間～早朝に採食を促すよう、就寝前のエサ押しや給与時間などを検討しましょう。

(4) 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分の低下への対応

ア 粗飼料の摂取量、反芻回数と唾液分泌量が減少するため、配合飼料の給与量の多い搾乳牛では、ルーメンpH低下によるアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす(少量頻回)、重曹(100～200g/日・頭)給与などを行います。

イ 発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10～20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹やリン酸カルシウムを増給します(放し飼いの場合は自由採食させるのも可)。



写真6

放し飼い牛舎での重曹の自由採食

次回の発行予定日は7月27日(木)です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**6月1日～8月31日は  
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう